

33. 高齢者肺癌の手術

鈴木亮二, 相楽恒俊, 花ヶ崎和夫
(県立鶴舞・外科)

最近5年間に80歳以上高齢者の肺癌手術を5例経験した。80歳3例, 88歳2例で, 組織型は腺癌4例, 扁平上皮癌1例, これらに施行した術式は葉切3例, 葉切+区切1例, 肺摘1例。知的精神機能の評価などいかに術後合併症を予防するかを考案した。

34. 胸骨原発腫瘍の1切除例

佐藤行一郎, 小幡貞男
(君津中央・呼吸・外)

前胸部正中に手拳大に増大した腫瘍を主訴として来院した74歳男性に対し, 胸骨を第1肋骨で横断し, 第2~第7肋軟骨を切離し切除した。組織標本は比較的稀とされる胸骨原発の軟骨肉腫であった。胸部欠損部は2枚のMarlex meshを芯にメチルメタクリル樹脂で成型した板を用い閉塞した。術後の呼吸補助は特に必要とせず, 4カ月順調に経過中である。

35. 気管支鏡検査における息苦しさにあつての検討

江渡秀紀, 水谷文雄, 木下 聡
宮内郁枝, 依光一之, 小波雄一郎
金子作蔵 (成東病院)

平成元年5月より当院にて初めて気管支鏡検査を行なった42名に対し息苦しさにあつてのアンケート調査を行い, 動脈血ガス・肺機能などとの関連性を検討した。酸素投与群では非投与群に較べ検査前後にてPaCO₂が有意に高く, 検査中の低酸素血症の回避には有用と考えられたが, 自覚的な息苦しきの改善は認められなかった。また息苦しきの訴えは高齢者に少なく, 男性に多い傾向があり, 肺機能検査との明らかな関連は認められなかった。

36. 当院における肝性胸水の検討

獅子原孝輔, 渡辺東也, 鈴木良一
平井康夫, 大島仁士 (松戸市立)
長 晃平 (千大・肺内)

1985年1月~1989年6月までに当院内科入院となった肝硬変患者127例中8例(6.3%)に肝性胸水を認め, その臨床的検討を行ったのでここに報告する。肝性胸水を認めた群は認めなかった群に比べ, 低肝機能を示す傾向にあり, さらに肝性胸水に腹水を伴った群は, 伴わない

群に比べ有意にPT, ChE, ALB値等が低値であった。また肝性胸水群中利尿剤反応群は非反応群に比べ, 有意にPlt, PT値が高かった。

37. 当院における腹部手術後呼吸器合併症の臨床的観察

武田恒弘, 前嶋 清, 大河原邦夫
寺本 修, 大多和哲, 小林 信之
(小見川中央)

当院における成人腹部全麻手術後の呼吸器合併症について検討した。胸部レントゲン上異常陰影を呈した症例は, 約8.0%であった。これらは高齢者に多い傾向にあったが, 手術時間・出血量による影響は少なかった。術前呼吸機能が正常の症例においても合併症は高率に発生した。合併症は肺水腫・胸水が多く, これらは上腹部手術例に多かった。術後に呼吸器合併症を起こした症例は, 腹部および全身の合併症も併発する傾向にあった。

38. 新しい麻酔法の紹介

高野浩昌, 森 典子, 青柳光生
(国立千葉・麻酔)

新しいBenzodiazepin誘導体であるMidazolamは, 優れた入眠作用や前向性健忘作用を有している。笑気を併用すれば, 成人で約2mgのごく少量のMidazolamで導入が可能であり, 前向性健忘効果も損なわれない。この麻酔法は, 呼吸循環系に影響を与えず, 気管支鏡などの侵襲を伴う検査にも応用できる。

39. 血液透析導入時, 胸部X線所見について

和田源司 (洵野辺病院呼吸器科)
大久保充人 (北里大学腎臓内科)

過去3年当院の血液透析導入9例の, 開始前, 胸部X線所見を中心に述べた。心胸比53.6%と増大, 胸水, 心嚢液, 鬱血像著明4例, 肺炎様所見2例等々。4例を供覧した。①58歳男性, 突然の呼吸困難, 腎不全, 人工呼吸器装着, 透析施行も死亡, 後にパラコート自殺と判明。急激な肺線維化像。②47歳男, 糖尿病性腎症, 著明な胸水, 心胸比増大。③39歳男, 気管支喘息, 気腫性変化が鬱血で隠蔽。④84歳男, 11年透析, 拒否1週間後, 再開にて改善著明。